



中田小

学校教育目標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

平成27年5月29日

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



同じ釜の飯を食う

校長 蒲谷 猛

「もち豚の陶板焼き」—5月26日・27日に出かけた修学旅行1日目の夕食メニューの1つでした。とてもやわらかくて焼き具合もよく、肉の味もつけダレも最高。みんなでおいしくいただきました。そして、朝食のソーセージが腸詰めのみで、これがまたおいしかったです。「修学旅行の夕食・朝食」というと「それなりの食事」の代名詞のように言われていましたが、いやいや最近の食事はそれとは全然違います。なかなかのおいしさで量も適量、食事の度にみんなで笑顔になり、会話ははずみました。

「同じ釜の飯を食う」という言葉があります。寝食をともにすることで、同じ苦労を分かち合い絆が深まる様を表す言葉です。本来は、ある程度の期間を経たときに、あてはまる言葉ではありますが、修学旅行での子どもたちの様子を見て、ふと、この言葉が浮かんできました。

たった1泊であっても、同じものを食べ、同じものを見、感動体験を共有すること、言葉では言い尽くせない思い出を共有することは、確かに「チーム6年」への帰属意識を高め、仲間の絆を深めていました。出来事の細部は年月が経てば忘れてしまうでしょうが、何年経っても今回の共通の体験は、再開した仲間の旧交を温める材にもなるのだろうと、卒業後の姿まで想像してしまいました。

ある男子の部屋では、数段ある靴箱に靴を横向きに入れていました。靴やスリッパを縦向きに入れるのが通常ですが、それだと無駄な空間ができて全員の分がしまいきれないので、知恵をしばったようです。なるほど横向きにすると、靴のサイズと棚の横幅が合うし、奥行きも活用して2層に納めることができるので、その工夫によって全員の靴が整然と収納されていました。

また、学年レクでの最後に担任4人によるサプライズの出し物がありました。突然のイベントに子どもたちは大盛り上がりです。実行委員の子どもたちも含めて、担任チームの出し物があることは完全なシークレットでしたが、終わったときにすかさず司会者が、「先生たちへの感謝の気持ちを込めて、代表が感想を言います。」と進行を変更。出てきた代表のコメントが、またウィットに富んでいて、会場を沸かせました。



6年生の協力と機転に感心させられた2つの例です。とても頼もしく感じました。今年度の学校のリーダーとして、その持ち味を生かしながら、全校での様々な活動を盛り上げてくれるだろうと楽しみです。

頼むよ。6年生！

『たからもの』

原詞・作曲 早川達哉（本校職員）

1 鳥の声 野山の草花

小さな虫
みんな みんな 友達さ
日光の自然

思い出たくさん

ポケットに
そっと入れて
しまっとう

大切な 大切な
たからもの

2 風の声 お寺の静けさ

大きな鳥居
みんな みんな
ほほえんでいる
日光の歴史

思い出たくさん

ポケットに
そっと入れて
しまっとう

大切な 大切な
たからもの

※今回の行事に合わせ、
子どもたちの意見も取り入れて
歌詞を変更しています。



